

「農地環境推定システムのアザミウマ発生予察に

基づいたカンキツの防除」

藤津農業振興センター

【背景・取組内容】

温暖化によりチャノキイロアザミウマの発生時期が早まり、適期に防除ができず果実への被害が増加していました。そこでアメダス等のデータから圃場毎の気象環境を推定する農地環境推定システム（農研機構開発）でチャノキイロアザミウマの発生ピークを管内9地点で予察し、防除を行いました。

【得られた成果】

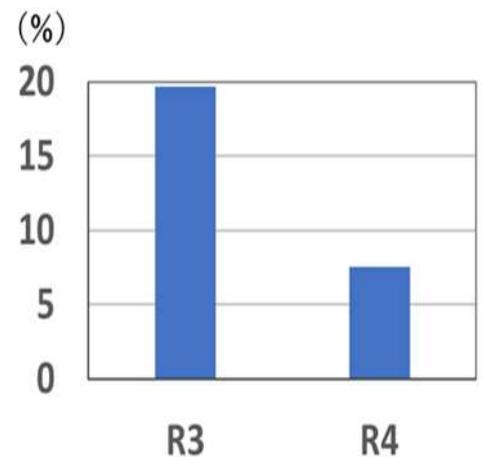
調査園では令和3年に19.1%あった被害果率が予察による防除を実施した令和4年には7.5%に減少しました。

【見えてきた課題、今後の展望など】

推定された気象データや発生予察はスマートフォンで見られることから、管内の農家に多数利用してもらうとともに、黒点病防除への活用についても周知します。



農地環境推定システムによる
チャノキイロアザミウマの発生予測



チャノキイロアザミウマによる
被害果の発生率